

CTG・建交労

とちぎ

発行所 全日本建設交運一般労働組合
栃木県本部
〒327-0315
栃木県佐野市吉水駅前1-2-1
TEL 0283-62-7312 fax 0283-62-7318
E-mail:DQJ06744@nifty.com



新しい役員、分会も紹介されました。



活動報告、運動方針を聞く参加した組合員

ダンプ支部大会

七六年連続増勢達成 百人支部めざして成

十一月十二日、佐野市「あくとプラザ」で第三十七回ダンプ支部定期大会を組合員七十一人の参加で開催しました。

工藤委員長はあいさつのなかで「碎石業界では異常事態が続いている。工場で製品（石灰二〇一〇五）を積むため連日長時間待機を強いられている」と製品の供給不足により稼働率が下がり減収と睡眠不足を強いられている実態を訴えました。

今後オリンピック需要等により、一層このような状況が悪化することが予想されています。このような業界で担い手の育成など到底不可能です。

運動方針では、単価、過積載問題など、いまこそ業界全体で取り組む必要が強調されました。

変化への対応を

そのためにも、組合員を増やし組織を大きくすることが重要です。大会議案では、一〇

首都高でのダンプ事故多発 事故原因の徹底調査を



首都高でのダンプなど大型車事故が増えています。十一月二十一日午前四時ころ、中央環状線を走行中のダンプが側面に衝突し横転しました。ダンプは側壁を乗り越える形で停車し、積荷の土砂が下の一般道にまで散乱、運転していた五〇代のドライバーが亡くなりました。

全国ダンプ部会では一〇月二十六日、東京オリンピック関連施設発注者である日本スポーツ振興センターにたいして、首都高を走る新国立競技場建設現場からの残土搬出ダンプの過積載や危険運行について、元請責任を指摘し調査を要請しています。いつも市民を巻き込む大惨事が起きておかしくありません。

「フクシマ」の風化許すな 脱原発集会に結集

十一月十二日、宇都宮市城址公園で「さよなら原発集会」が開催され、ダンプ支部から十一人が参加しました。

六月に開催された全国ダンプ交流集会の帰路、福島第一原発事故

の被災地を視察、参加した石川副委員長は、「六年たつても復興していない。原発事故の深刻さを実感した。忘れてはいけない」と語り、宇都宮駅までパレードを行いました。



集会には県内各地から1700人が参加。しかし事故の記憶が風化しつつある現実も。原発推進勢力は国民の「忘却力」に期待しています

